

# 保護者の関与が少年サッカーの技能に及ぼす影響

永富 達也, 坂元 康成

The Influence of Soccer Skills for Children Regarding to Their Parents Relationship

Tatsuya NAGATOMI, Yasunari SAKAMOTO

## 要 旨

本研究では、運動技能の高い子どもの保護者が普段どのように子どもに接しているのかを明らかにし、保護者の在り方というものを指導現場に還元することで、今後の指導の一助とすることを目的としている。少年サッカーチームの選手を対象にボールリフティングを運動技能の指標として測定し、アンケートによって保護者の普段の子どもへの接し方を調査した。

その結果運動技能が高い子どもは、休日に父親と過ごす時間が短い、練習には自分で行く、用具にかかる費用が高い、保護者が試合によく来る、保護者に期待されているという傾向にある。また、運動技能が高い子どもの保護者は、子どもの活動への関心が強い。しかし、子どもの自立を促すような接し方をしているということが明らかになった。

## 1. 緒言

スポーツ界において野球のイチロー選手や体操の内村航平選手など保護者の支えを受け活躍する選手は多く見られる。

著者は佐賀大学ユニキッズサッカースクール(以下ユニキッズ)で小学生を対象にサッカーの指導をしており、小学生、またその保護者と関わる機会が多い。ユニキッズに在籍している選手のうち、小学4年生以上の子どもたちは佐賀県サッカー協会に登録し、様々な大会等に参加している。そういった試合や普段の練習時に保護者の関与はよく目にする。保護者が試合や練習の応援に来てくれる、試合や練習の送迎をしてくれる、道具の準備や片付けを手伝ってくれる、一緒に練習をしてくれるなど様々な関与の仕方がある。また一方で、保護者の関与は一緒に夕食を食べる、衣類の準備や片付けを手伝ってくれる、休日に一緒に過

ごす等といったサッカー活動と関係のないことでの関与も多い。

子どもにとって保護者は影響力が大きい存在である<sup>1)</sup>。「子どもの成長に対する影響は、生活の基本的な習慣形成と家庭、社会生活の基本的な型の習得に関して大きい」と伊藤は述べている<sup>2)</sup>。保護者の関与が歯磨きや挨拶といった日常生活や生活習慣、社会生活に対して影響があるということはすでに先行研究により明らかとなっている<sup>4)</sup>。

また、林らは「保護者がスポーツへの関心が高いと子どももスポーツへの関心が高くなる」「保護者が頻繁に運動を行っている子供も運動に参加する頻度が多い」と述べている<sup>3)6)</sup>。日常生活や生活習慣だけでなく、スポーツの関心や習慣においても保護者が子どもに与える影響は大きいといえる。

このように、保護者の関与と子どもの習慣に対

する研究は多く見られるが、保護者の関与と運動技能との関係についての研究は少なく、保護者の子どもへの関与の仕方によって運動技能に影響があるのかどうかは明らかになっていない。

そこで本研究では、保護者の関与が子どもの運動技能に対してどのような影響を与えるのか調査し、保護者の在り方というものを指導現場に還元することで、今後の指導の一助とすることを目的とした。

## 2. 研究方法

### 2-1. 調査対象

対象は少年サッカーチーム選手の4年生46名、5年生39名、6年生54名の計139名とその保護者である母親136名、父親129名の計265名であった。

### 2-2. 調査方法

被験者となる選手を対象に技能の測定を行った。技能の測定には日本サッカー協会が推奨している「U-12年代の獲得してほしい技術項目」<sup>5)</sup>の中よりボールリフティングを採用した。

「リフティング」は中学生年代のU-14、小学生4年生以下のU-10年代では挙げられておらず、U-12年代で唯一挙げられている項目である。このことから「リフティング」はU-12年代でぜひ獲得してほしい技術であることが示唆されている。このことから本研究ではリフティング回数を運動技能の指標とすることとした。

また、保護者を対象にアンケート調査を実施した。アンケートは選手の技能測定時に配布し、後日回収した。回収率は82.7%であった。

分析については「Microsoft Excel」を用いた。なお、有意差の検定については対応のないt検定を用い、有意水準は5%未満とした。

## 3. 結果及び考察

### 3-1. 用具への費用のかけ方と運動技能

図1は1年間に用具にかかる費用別に見たりフティングの回数を示している。費用が高くなるにつれてリフティングの回数が多くなっており、3

万円以上の群は1万円未満の群より5%水準で有意にリフティングの回数が多かった。

これは技能の高い子どもが自分の能力をより発揮するための高い意識や用具へこだわりが保護者にも浸透していることが考えられる。

また、技能が高い子どもはそうでない子どもよりも練習量が多いということが予測される。少年サッカーでは、土のグラウンドでの練習が多く、練習量が多いということはサッカーシューズのような消耗品は他の子どもよりも多く購入しなければならない。このことも図1の結果になった1つの要因であると考えられる。

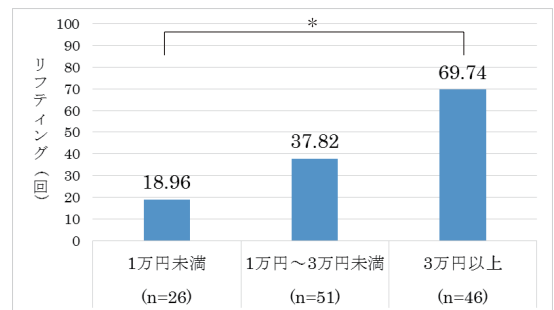


図1. 用具への費用のかけ方と運動技能

### 3-2. 休日に保護者と子どもが一緒に過ごす時間と運動技能

図2、図3はそれぞれ父親、母親と子どもが休日に一緒に過ごす時間別に見たりフティングの回数を示したものである。

図3では、すべての群において変化がみられなかった。このことから母親と休日に過ごす時間と運動技能は関係がないということが示唆された。

これに対し図2では、「4時間未満」の群が「8時間以上」の群に比べリフティングの回数が5%水準で有意に多いという結果となった。

このことから運動技能が高い子どもは休日に父親と一緒に過ごす時間が短い傾向にあるということが分かる。

運動技能が高い子どもは休日に練習や試合に参加していることが多いと予測され、休日も練習や試合に参加することで技能は高くなる。しかし、

休日にも仕事があるという父親も少なくない。このことが運動技能が高い子どもと父親が休日一緒に過ごす時間が短い傾向にある1つの要因であると考えられる。

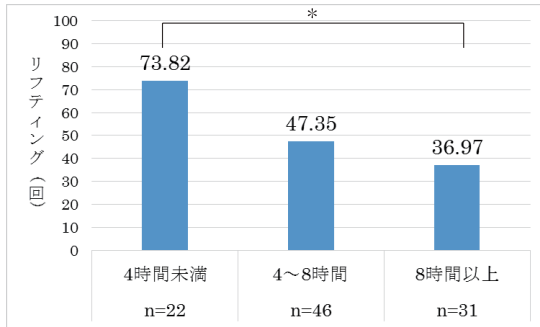


図2. 休日に父親と子どもが一緒に過ごす時間と運動技能

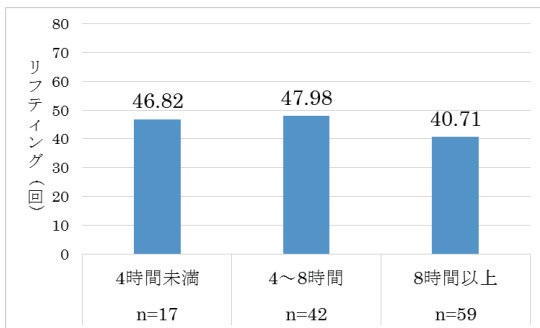


図3. 休日に母親と子どもが一緒に過ごす時間と運動技能

### 3-3. 練習への送迎の有無と運動技能

図4は父親、母親それぞれの子どもの練習への送迎の有無とリフティングの回数を示したものである。

父母共に「送迎をする」群が「送迎をしない」群よりも回数が少ないという結果になった。このことから運動技能の高い子どもは練習には自分で行く傾向にあることが分かる。

技能が高い子どもはある程度の親離れが出来ており、それが図4の結果につながったと考えられる。

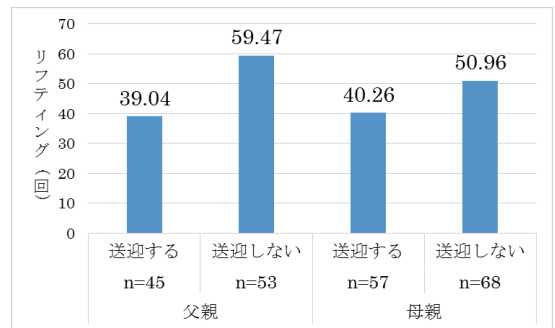


図4. 保護者の練習への送迎の有無と運動技能

### 3-4. 試合の応援参加の有無と運動技能

図5は父親、母親それぞれの子どもの試合の応援への参加の有無とリフティングの回数を示している。

父母共に「応援に行く」群が「応援に行かない」群に比べて回数が多いという結果になった。このことから技能が高い子どもの親は子どもの試合の応援に行く傾向にあるということが分かる。

保護者が試合の応援に行くということは、それだけ試合の機会が多いということである。試合の機会が多いと必然的に練習量も増える。また、試合の応援に行くということは、子どもへの期待度が高いということである。

これらのことが図5の結果につながったと考えられる。

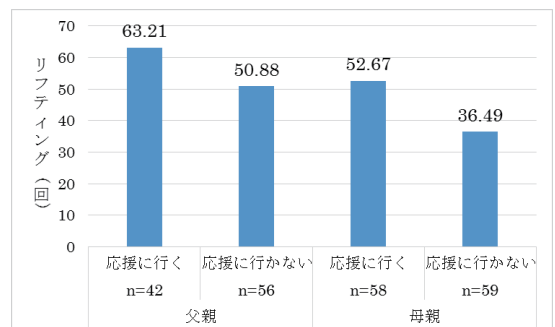


図5. 保護者の試合の応援参加の有無と運動技能

### 3-5. アドバイスの有無と運動技能

図6は父親、母親それぞれの子どものプレーに対してのアドバイスの有無とリフティングの回数を示している。

母親のグラフでは「アドバイスをする」群が「アドバイスをしない」群に比べてリフティングの回数が高い値を示したが、父親のグラフでは「アドバイスをする」方が「アドバイスをしない」方に比べてリフティングの回数が少ない値を示した。

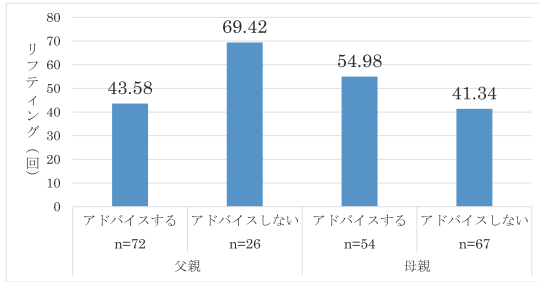


図6. 保護者の試合の応援参加の有無と運動技能

本研究ではこの原因までは分析できなかったが、著者が指導現場で感じるのは、母親のアドバイスは「がんばれ」や「もっと声を出そう」などといった精神的な称賛や励まし、つまり子どもに対し教育的なアドバイスが多く見受けられる。これに対し、父親のアドバイスは「ボールを持っていないときに周りを見ないと」や「シュートをしっかり打て」などといった技術的な指摘や忠告、つまり子どもに対し高圧的なアドバイスが多く見受けられる。このことが図6の結果になった1つの要因であると考えられる。

### 3-6. プレーへの賞賛の有無と運動技能

図7は子どものプレーに対して母親、父親がそれぞれ「ほめる」、「ほめない」という関与に対してのリフティングの回数を示している。

仮説通り母親、父親の両方で「ほめる」群が「ほめない」群に比べてリフティングの回数が多くなるという結果になった。アドバイスの結果でも述べたように称賛や励ましといった子どもに対してポジティブに働く声かけというのは子どもの運動技能の伸びに影響していると考えられる。

運動技能が高い子どもは保護者にプレーをほめられて成長している傾向にあるようである。この傾向は近年では特に顕著な傾向である。

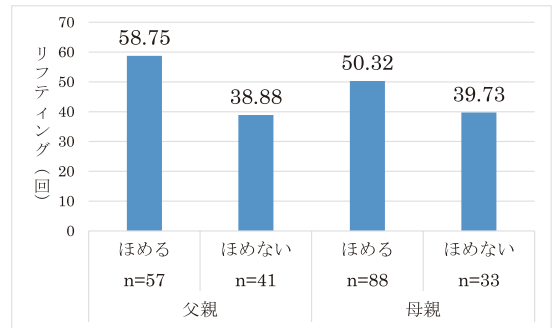


図7. 保護者のプレーへの賞賛の有無と運動技能

### 3-7. プレーへの叱責の有無と運動技能

図8は子どものプレーに対して父親、母親それぞれが「しかる」、「しからない」という関与に対してのリフティングの回数を示している。

母親のグラフは「しからない」群が「しかる」群よりリフティングの回数が多くなったのに対し、父親のグラフでは「しかる」群と「しからない」群のリフティングの回数は差がないという結果になった。

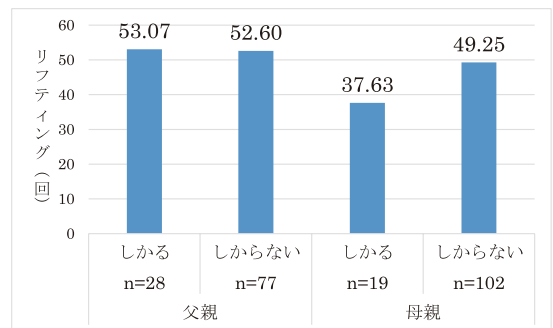


図8. 保護者のプレーへの叱責の有無と運動技能

### 3-8. 保護者の期待と運動技能

図9は保護者の子どもに対する期待別に見たりフティングの回数のグラフである。

「体力向上」、「仲間作り」、「マナーアップ」の数値は変化が見られなかった。これに対して、「プロになってほしい」の値は他の期待に比べ圧倒的に回数が多いという結果になった。

「体力向上」、「仲間作り」、「マナーアップ」はサッカーを手段として考えており「プロになってほしい」というのはサッカーを目的として考えている。

この考えの違いが図9の結果になった一要因であると考えられる。

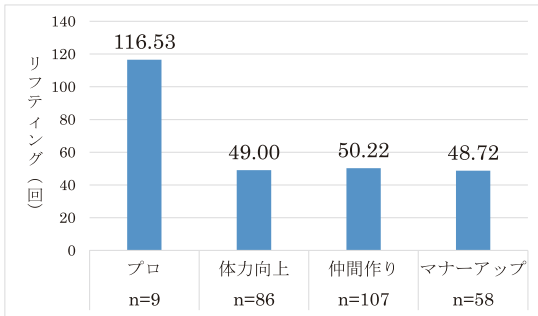


図9. 保護者の子どもへの期待と運動技能

### 3-9. プロへの期待と運動技能

図10及び図11は父親、母親がそれぞれ子どもに対して「プロになってほしい」、「プロにならなくてもよい」と期待の有無とリフティングの回数を示している。

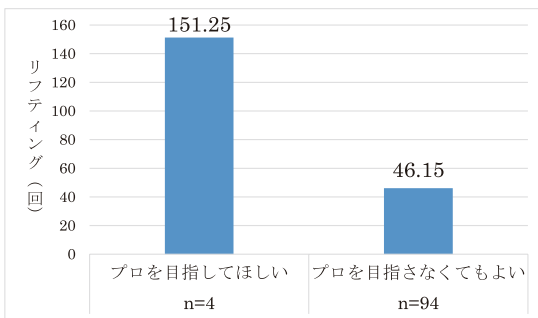


図10. 父親のプロへの期待の有無と運動技能

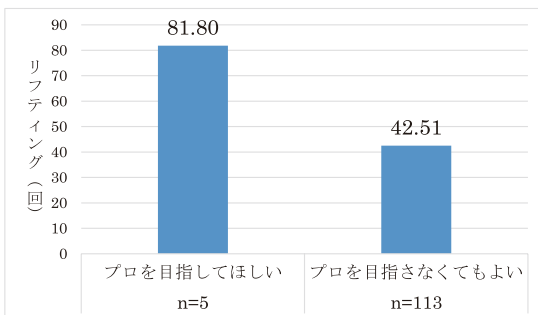


図11. 母親のプロへの期待の有無と運動技能

父母共に「プロになってほしい」群が「プロにならなくてもよい」群に比べリフティングの回数が多いという結果になった。

これは、子どもの運動技能が高いことで保護者の期待値も高まっていることも考えられる。

## 4. まとめ

本研究は保護者の関与が子どもの運動技能にどのような影響を及ぼしているかを調査するという目的で、保護者の関与に対する子どものリフティングの回数を調査した結果以下のような知見を得ることが出来た。

### ①運動技能が高い子ども

- ・休日に父親と過ごす時間が短い
- ・練習には自分で行く
- ・用具にかかる費用が高い
- ・保護者が試合によく来る
- ・保護者にプレーをほめてもらっている
- ・保護者に期待されている

### ②運動技能が高い子どもの保護者

- ・子どもの活動への関心が強い
  - ・子どもの自立を促すような接し方をしている
- つまり、試合の応援に行き、用具にかかる費用を惜しまず、大いに期待する。しかし、子どもが自分でできることは自分でやらせるといった関与が保護者には求められることが示唆された。

## 5. 引用・参考文献

- 1) 小口寛子, 萩原孝, 片海智子, 沖殿ちひろ, 渡辺幸嗣, 渡部茂: 子どもたちの常識調査: 常識形成における保護者の影響, 小児歯科学雑誌 50(2), 297, 2012-04-25
- 2) 伊藤 榮子: 子どもの発達に対する母親の影響, 日本赤十字秋田短期大学紀要, 9-21, 2009-03-19
- 3) 林大喜, 中野貴博, 春日晃彰: 保護者のスポーツ関心度が子どものスポーツ参加および運動能力に及ぼす影響, 日本体育学会大会予稿集, 65(0), 191, 2014
- 4) 成田朋子: 子どもの発達における家族の重要性について, 名古屋柳城短期大学研究紀要(33), 47-55, 2011
- 5) 「JFA2007U-10,U-12,U-14指導指針」日本サッカー協会編集部 (2007)
- 6) 金子勝司, 東野充成, 村田敦郎: スポーツと子どもの発達に関する研究: 子ども向けスポーツに対する親の期待感と効用感, 共栄学園短期大学研究紀要, (24), 91-108, 2008-03-31